



Jコース <黒田・星山地区>

星山の手ひきと倭文神社コース

— みどころ —

星山地区には、江戸時代の名主深沢安兵衛が残した道標(手ひき)や、古代から続く倭文神社などが今も残されている。

みどころポイント 石造物  寺社 



距離:約5km 所要時間:約2時間

マークの凡例: 観察ポイント ● 説明板 ▲ トレ  駐車場 P 寺院  神社  湧水 

石造物  富士山眺望ポイント  ルート —

— コースのみどころ —

①月の輪遺跡群

市内で最も密集度の高い遺跡群である。市立黒田小学校南側に「月の輪上遺跡」(弥生時代後期後半)がある。その西側には「月の輪平遺跡」(古墳時代前期)と「月の輪下遺跡」(古墳時代前期)があったが、星山放水路開削工事などにより消失した。

②大悟庵観音堂

観音堂の本尊は観音菩薩の大きな凶像「星山大観音」であり、かつては毎年3月18日に開帳された。農繁期をひかえ、出店や農具市もたち、賑わったという。現在は3月第3日曜日に開帳されている。また、観音堂は駿河一国・駿河伊豆両国・富士横道の各観音霊場巡りの札所になっていた。

③倭文神社

大悟庵境内にある神社で、織物の神を祀る。古代の神社のリスト『延喜式神名帳』(927年編さん)に記載がある古い神社である。倭文神社は、古代に織物を生産する集団「倭文部」が祀ったものが元になっていると考えられている。

④高遠石工のつくった題目塔

信孝寺入口の題目塔に、慶応元年(1865)の年号と信州高遠村石工の名前が彫りこまれている。江戸時代、信州高遠(長野県伊那市)出身の石工は各地で腕を振るった。また、近くの道端には道祖神などの石造物が集められている。

⑤星山の手ひき

星山地区を中心として、深沢安兵衛が造立した道標(手ひき)が27基現存している。深沢安

兵衛は江戸時代の文化・文政年間(1804~1830)に活躍した星山村の名主で、用水路整備や道標設置などを行った。深沢安兵衛が建てた道標のうち、元の位置に建つものは9基で、他は道路改修工事などで位置が変えられてしまっている。

⑥王藤内の墓

王藤内は、鎌倉時代に行われた富士の巻狩のおり、曾我兄弟の仇討ちの巻き添えになって殺されたとされる人物である。王藤内の墓と伝えられてきた塚は、調査の結果、土盛りの下に敷石に覆われた墓穴があり、墓穴から人骨や寛永通宝などが出土した。出土物がいずれも近世のものであることから、江戸時代の塚と考えられる。この塚は星山放水路開削工事により消滅した。「王藤内之碑」には、現在地に墓碑が移されたことが記されている。

⑦自證寺

山号は鬼子母山で、安産・子育ての神である子安鬼子母神を祀る。伝承によると、ここは昔の刑場跡であり、災厄を恐れた人々が厄除堂を建てて鬼子母神を祀ったことが寺の起こりだという。

コース沿いで見ることが出来る深沢安兵衛の手ひき

(位置は地図上に  の番号で表示)

- ① 旅館ほし山 入口の道沿い
- ② 旧道の角
- ③ 東に行った道端
- ④ 星山字坊地の弁天さんの道の角(大悟庵入口の石段前)